

あの頃の〈工都尼崎〉での

労働組合運動の

経験を知ろう ③



演劇人そして労働組合などが安保反対に立ち上がった。

5月19日衆議院で通過すれば1ヶ月後に自然成立する。19日の国会の本会議で審議、夜半に採決になり、反対の社会党議員が自民党により導入された警察官に排除され、自民党単独の强行採決で可決された。

学生の全学連、

国会突入で大乱闘

安保反対運動は日に日に盛り上がり、連日のように国会のまわりにデモ隊が押しかけた。僕達の組合も本部役員は何回か青山から赤坂を歩き、国会に向かった。ある時は麻布のアメリカ大使館にも請願デモに参加した。デモそのものは憲法で定められた行為で殆どは整然と行なわれ、街頭の人々からも声援を受けた。デモ参加者は17万人に上り、一人の検挙者も出さなかつた。

60年安保闘争に参加

「年が明け昭和35年、賃上げ交渉も例年どおり、ストをまじえて終結したが、その間、日本国中が騒然となつたいわゆる60年安保闘争が始まった。

あくまで政治闘争であり、組合がこれに参加するべきか議論したが、やはり組合としても憲法で定めた戦争放棄が掲げられている以上、戦争に巻き込まれる恐れのある安保条約は日本の将来を考えると傍観すべきでないとして、革新的な知識人、学者、学生、映画

ように構内に入つていった。何か事故だろと話していたが、デモ解散後テレビニュースでわかつたが、全学連と警官隊と大乱闘になり、東大の権美智子さんが乱闘の犠牲者となつた。「全学連700人が国会通用門を破り構内に乱入、警察官と衝突。200人以上が負傷」というニュースが流れた。

このデモに参加した人は全国で560万人と新聞は報じている。

本部役員として

画期的な歴史に遭遇

同じ頃日本の労働組合史上最大の事件といわれ、総労働対総資本とまで言われた大牟田の三井三池炭鉱の闘争が繰り広げられ、組合の分裂を招き11月に中労委の斡旋により終結を見た。日本のエネルギー革命とまで言われ、その後石炭企業は急速に衰退し、石油の時代になった。・本部役員としての1年に、日本の歴史を変える画期的な事件に遭遇し、自分でもな



1970年代に撮影された「ヰ
リンビール尼崎工場」の外観 2020.5.13 神戸新聞

んとなくラッキーな気がした。

組合のイベントも終わり6月頃だったと思うが、息抜きに中執の独身仲間三人で尾瀬にテントを担いでいくことにした。その年日本で初めて缶ビール工場が東京荒川にでき、そこの友達が缶ビール一箱を扱いできた。」

ちょいと一杯のつもりで飲んで、いつの間にやら♪

「東京から帰つてからの仕事も監視業務で、責任のある業務だがそれほど難しいわけでもなく、組合の仕事のない時はなんとなく平凡に過ごした。

終業後には、職場内で暗黙に認められていた特権でビールが飲めるのが楽しみだった。つまり最終工程で検査に通らない入り味不足、壊の傷などの不良製品（中身は別に異常ない製品）は再度冷蔵室で冷却し、翌日栓を抜き醸造タンクに戻して再び壊詰めすることになるが、その冷蔵庫の管理は職場に任されているため、職場の一部の限られた人間はそこで自由に飲むことができた。勿論そこには100箱を下ることはなく、翌日朝には全部栓を抜いてタンクに戻すもので、中身はまったく製品と変わらない。

自由に飲めるといつても勿論醉っ払うほど飲むわけでもなく、せいぜい1本か、土曜日は仕事が遅い（一面の最下段に続く）

新聞づくりを学ぶ

教宣部の仕事は組合の情報を流したり組合員の教育をすることで、三役に次ぐポストで、特に組合機関紙を発行するため新聞の編集方針、特集記事などの原稿書き、原稿集め、新聞のレイアウト、見出しなど今では印刷会社がする事まで経費を節減するため、全部一人

でした。レイアウトは何を訴えたのか、見出しのつけ方、活字の大きさとか新聞を読むときの目流れに沿つた記事の流し方、囲み記事や写真の入れ方等プロに色々と教わった。